

農事組合法人 ファーム宇賀荘

有機農業・環境
保全型農業部門

大規模集落営農法人での地域環境に配慮した営農の展開
～生物多様性に配慮した「どじょう米」生産から有機米へ～

所在地：島根県安来市

面積：200.5ha

応募区分：個別経営の部（生産）

構成員：249人

栽培品目：水稻、大豆

取組の紹介

【有機農業・環境保全型農業に取り組んだきっかけ】

- 冬期に多数の水鳥が飛来するなどの自然環境を将来に残そうと「地域環境に配慮した営農の展開」を運営方針に掲げ平成14年に任意組合を発足し、水稻で化学合成農薬及び化学肥料をしない「どじょう米」の取組を開始。（令和4年8月に有機JAS認証を取得。）

【環境負荷低減の取組】

- 有機米16.7ha、特別栽培米33ha、慣行より50%以上農薬を低減した栽培米18ha（R6実績）等に取り組んでおり、有機米は専用の乾燥施設を整備し、25haを目標に拡大。
- どじょうの放流と冬季湛水を組み入れた「どじょう米」の栽培体系は、どじょうのほか水鳥の安全な越冬場所及び餌場を提供していることで生物多様性の確保に寄与。
- どじょう米以外の水稻についても農薬・化学肥料の低減に取り組んでいるほか、大豆も農薬・化学肥料を慣行栽培より50%低減した栽培に取り組んでいる。

【効率的な生産に向けた取組】

- 大区画のほ場でGPS機能搭載の田植機やコンバインを導入し、燃料、人件費等を削減。また、営農補助ツールを用いて作業の見える化を実施。省力化と効率化を行いながら営農記録を残して、次世代への継承も意識した取組を実施。

【安定出荷・販路確保の取組】

- 特定の販売先と結びついた販売を実施。また、販売先等と連携し、販売動向を踏まえた作付けや新品種の試作なども実施。

【消費者等への情報伝達の取組】

- 地元小学校と連携した総合学習での探究活動、農林大学校生の農家研修受入などに協力し、消費者や地域との交流を継続して実施。



どじょう(稚魚)の放流



どじょう米の販売



冬季湛水ほ場



田植交流会の様子